



写真 一言寺 本堂

真言宗醍醐派のお寺で金剛王院、通称一言寺と言います。ご本尊の千手観音さんに一心に祈れば言下に願いがかなうことから、一言寺の名がおこったと伝えられています。「ただため、仏にうそはなきものぞ、二言といわぬ、一言寺かな」の御詠歌の額が本堂の軒下にあります。本堂は、一八一〇年（文化七年）の再建で、江戸時代を代表する建築の一つです。内陣の中にさらに土蔵造りの奥内陣がある珍しいものです。一言観音と呼ばれる秘仏千手観音菩薩像は、この中に安置されています。

醍醐の地には、古代から現代へと続く歴史があります。第二回では、一言寺を紹介します。

### 第二回 醍醐 歴史探訪

社会福祉法人 伏見福祉会 広報誌



題字・発行人 理事長 高松俊英

介護老人保健施設 醍醐の里  
京都市伏見区醍醐内ヶ井戸19-1  
TEL(075)571-5222  
FAX(075)573-7666

### 施設運営理念

- 1.老人の人権を尊重し、生活の質の向上に努める。
- 2.老人の自立を支援し、家庭復帰を目指す。
- 3.老人とその家族が安心して暮らせるまちづくりに貢献する。

### 「自分を生きる」

社会福祉法人 伏見福祉会  
理事長 高松 俊英

九十歳を過ぎてても、元気で診療活動が続けられている聖路加病院院長の日野原医師は、最近自分の半生を振り返り、これからの人生の生きる決意をこめて「老いを生きる」という著書を出版され、社会的に大きな反響を呼んでいる。

十年前の阪神・淡路大震災以後、度重なる風水害などで多くの生命が失われ、人々は生命の大切さに気づき「震災を生きる」「障害を生きる」「二十一世紀を生きる」など「生きる」という言葉が多用すること、死への不安・恐怖から逃れようとしているのではないかと、思うのは私一人ではないだろう。この現象は平安時代末期の世相によく似ている。釈迦滅後千五百年に到来する末法思想（釈迦の正しい教えは大衆に浸透しない）が平安末期とされ、人々は混乱の中にあり、加えて天災地変による疫病の流行や、飢饉による食糧不足で多くの命が失われ、人々は社会不安のなかで生きる望みを失い心の支えを求めていた平安末期から鎌倉期に新しい仏教が誕生し、大衆の救済に乗り出した。法然・親鸞の浄土教、日蓮の日蓮宗、道元・栄西の禅宗がそれである。この意味で鎌倉期は日本文化のルネッサンスといわれる所以がここにある。



いま、この時代を生きる多くの日本人は、何を心の支えとしているのか不明である。その意味で宗教や政治の役割は大きい。



それはともあれ、私の体験を通して私なりに生きる意味を問いつつ日々生活している現状を話してみたい。

先に述べた法然・親鸞の広めた浄土教の中心となる「大無量寿経」という經典のなかに「身自當之無有代者」という言葉がある。（私の人生は、私のもので、生死を通して自らが生きねばならない。他人が代わってくれないという意味である。）私は二年前脳出血で左片麻痺の後遺症をもち、宇多野病院に入院し治療とリハビリを受けた。ここは京都市立鳴滝養護学校を併設している訓練室には多くの筋ジスの子供達が厳しいリハビリを続けている。このリハビリは誰も変わってやる事ができず本人が自ら厳しいリハビリに耐える真剣な生き方が課せられているのである。私は七十年の生涯を通じてこんな真剣な生き方はしたことがなかった。私は、多くの理学療法士の指導のもと、厳しく長い歩行訓練を経て、介助なしで日常生活ができるようになったのも、これらの筋ジスの子供達に励まされ、さきの経文の言葉によって生きる指針を与えられ、これからの私の歩み方、生き方を教えられた思いで、代る者なこと無しを、常に自分に問い続けて生きていたいと思う。

# 夏祭り特集



平成17年7月23日に、醍醐の里にて『第五回醍醐の里夏祭り』を開催させて頂きました。今年は夏祭り開催時間の延長・バイキング形式など初の試みもあり、楽しんで頂けるか心配しておりましたが、利用者の皆様に楽しんで頂け、喜びで一杯です。より一層楽しんで頂けるように、来年に向け企画に取り組んでまいります。



## 『食べ物』模擬店

今年は、バイキング形式を取り入れました。カレー・たこ焼き・おでん・おにぎり等数種類から選んで頂きました。ノンアルコールビールもあり、普段とは違う食事メニューに、「美味しかった」「選べて楽しかった」等、嬉しいお言葉を沢山頂きました。

## 『遊び』コーナー

金魚すくい・ヨーヨーつりでは、童心に返り真剣な眼差しで挑まれておられました。



## 『大抽選会』

毎年恒例の抽選会！！事前に利用者様に番号を配布させて頂き、くじ引きに参加頂きました。



## 『遊び』コーナー

ひもたぐいでは、一等を狙って、ひもを力いっぱい引っ張っておられました。



## 『バザー』会場

利用者様の中には、開店を待ちわびる声も出ていた程、バザーも恒例になりました。

## 『尺八』ボランティア

懐かしい音楽が流れたすと、昔を思い出し自然に口ずさんでおられました。



## 『手品ボランティア』

手品を披露して頂くたび、驚きの声と拍手が聞こえてきました。



## 『作品展』

通所リハビリ：『うちわ』  
2階：『手芸教室』にて作られた作品  
3階：利用者様とスタッフとの共同作品。



『夏祭りを終えて』

夏祭り実行委員長

川崎



第五回夏祭りに、各階・通廊・ホールハビリの利用者様、そして暑い中たさんの家族の皆様に参加して頂き、深くお礼申し上げます。

今回の夏祭りは、時間を延長し、食事バイキング形式を取り入れました。利用者様には食事を選び楽しみがあればと企画しましたが、皆様に楽しんで頂けたことと思います。

遊びコーナーでは、夢中になられる姿、普段とは違う表情がみられました。作品展では、利用者様・スタッフ共に力を合わせ仕上げた作品を展示し、バザーコーナーでは家族様の協力もあり、たくさん品物が集まり楽しんで頂けたと思います。

私事ですが、夏祭り実行委員長を努めさせて頂き、問題点や課題が多い中、利用者様に「大丈夫か？しっかりな」「頑張るなさいね」など、多くの方に声をかけて頂き、元気を頂きました。実行委員のスタッフ・学生ボランティアの皆様との協力のもと、事故なく無事終えることができました。

利用者の皆様に喜んで頂き、皆様の笑顔に出会えた感無量の気持ちで一杯です。

皆様、ご協力ありがとうございました。来年度も、より一層喜んで頂けるよう、取り組んでまいります。

2階療養棟『手芸教室』

毎月第二水曜日に、ボランティアによる手芸教室は、見栄え良く、簡単にでき、季節感有り、かつリハビリ要素もある作品作りを提供して頂いています。今年の四月より「鯉のぼり」から始まり、五月は「巾着作り」、六月は「すずらんと匂い袋」、七月は「花火と西瓜の貼り絵の色紙」、八月は「ランチョンマット」と色々作成して頂いています。

作成してもやはり個性が出るもので、「花火と西瓜の貼り絵」では、和紙の貼る位置が少しズレて西瓜が転がっているように見えたりして、少しずつ味わいのある作品に仕上がりました。今のところ手芸教室の参加者は、二階利用者の方々のみなので、手芸教室の時間が終わり、一階から二階へ戻ってこられる時、いつも笑顔で戻ってこられるので、スタッフもその利用者様の笑顔を毎月見れるのも嬉しいものです。



醍醐の里 防災委員会より

平成十七年度第一回消防訓練を、六月二十一日に実施させて頂きました。

醍醐の里 防災委員会とは、年二回の消防訓練をはじめ、「防災に強い施設づくり」を目標に活動している委員会です。

具体的な活動内容としては、先に述べた消防訓練の他、普通救命講習、消防管理者講習会への参加、防災時マニュアルの作成があげられ、所轄消防署のご指導とご助力を頂戴し活動しています。今後も、ご利用者様・ご家族様に安心して過ごして頂ける施設であり続けるため、活動していく所存です。

また、防災委員会の今後の目標として、「地域貢献」をキーワードにしています。地震大国である日本では何時、大地震が発生するか予測ができません。大地震が起きた際に、地域の皆様にとつての避難の場として施設が機能できないかどうか検討しています。

まだまだ、克服すべき課題は多く、実現には至りませんが、地域に根ざした施設である為に一歩一歩前進していければと考えています。



平成17年6月21日  
『消防訓練』

# ご案内

『敬老会』のお知らせ

『クリスマス会』のお知らせ



日時：平成17年9月17日（土）

13:30～15:00

場所：1階フロアー

日程：平成17年12月24日（土）

※時間・場所等、現時点では未定です。

昨年度は、  
『京都A I あい』  
劇団の皆様に来て  
頂きました。



平成16年クリスマ  
ス会の写真です。  
サンタクロースとの  
乾杯風景です。



## ボランティア募集

いま・・醍醐の里では、

ご利用者様に楽しいひとときを提供して頂けるボランティアの方を募集しております。

毎月、団体や個人のボランティアの皆様が素晴らしい民謡や舞踊・歌謡等をご披露いただいております。

今までにご披露頂いた皆さん

沖縄民謡・韓国舞踊・演劇・日本舞踊・コーラス・フラメンコ・フラダンス・尺八演奏・津軽三味線・等々



ボランティア

お問合せは

担当：中西まで

075-571-5222

第五回醍醐の里夏祭りはいかがでしたでしょうか？今回は食事をバイキング形式で用意させて頂くことで、より一層楽しんで頂き、ご満足して頂ける様にとの思いで、スタッフ一同準備してまいりました。多くの皆様のご協力の元、成功に終えることが出来ました。今後も様々なイベントを通してご利用者様・ご家族様・関係者の皆様との交流を深めていけたらと思っております。

広報委員 原田 さとみ

まだまだ残暑の厳しい毎日ですが、皆様はお変わりなくお過ごしでしょうか。『きらっと醍醐の里』もお陰様で、第四号を発刊する運びとなり、広報委員一同大変嬉しく思っております。今号は七月に催された夏祭りのご報告をさせて頂きました。来年度も充実した夏祭りは実現できるような努力していきたいと思っております。また各階の特徴を生かしたレクリエーションや施設内菜園での収穫や調理・おやつ作りなどの取り組み、クラブ活動なども紙面を通して皆様にお伝えしていけたらと考えておりますので、今後もおたたくかいご支援を賜りますようお願い致します。

広報委員 森下 扶佐代

編集後記  
平成十七年 広報委員会